

県立宝塚北高等学校 令和元年度 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	令和元年度 具体的な取組	教員			生徒		保護者		担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて	(評価)	評価に対するコメント
			(H30)年間	R1中間	R1年間	H30年間	R1年間	H30年間	R1年間				
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 ホームページのブログの更新の頻度を高め、学校webサイトをより見やすく充実させ、最新の情報を提供する	A	A	B	B	B	B	B	広報	ブログの更新頻度がやや減少し、タイムリーな記事や、学年の視点での記事が少なくなったことが低評価となった原因と考えている。次年度は学年の協力も得て更新頻度を増やし、さらに生徒の広報委員会も巻き込んでホームページやブログでの発信を行いたい。	B	HPIについては、広報の重要なアイテムである。トップの写真や、紹介ビデオ等、新しいものに更新してはどうか。保護者向けに学年通信などを載せるなど、さらに活用してもらいたい。
		2 多くの生徒が前面に出て活躍する場を提供するなど、学校説明会を充実したものにす	A	A	A	/	/	/	/	総務	昨年度は第2回学校説明会が警報のため中止になったが、今年は無事3回とも行われ、そこでの生徒の活躍が印象に残ったものと思われる。今後、その他の場面で生徒が活躍できる場を探し、活躍の場を増やしたい。	A	今後も積極的に生徒が活躍する場を提供して欲しい。学校説明会については、当日参加者のアンケート回答も重要な指標になる。
	危機管理体制の確立	3 防災HRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上をさらに図る	B	B	B	B	B	/	/	総務	年度初めの避難訓練は毎年のことなのでややマンネリ感があるのは否めないが絶対に必要な取り組みである。ただ、1学期末の「総合治水」の学習がDVDを見てプリントをまとめるものだったので生徒の興味もあまりわかなかったのかも知れない。今後は各学年と協力し、生徒が積極的に参加し、自ら考え、課題を解決していくような防災学習に取り組んでいきたい。	B	避難訓練は例年同じ形でよい。災害が増える中、さらなる取組にも力をいれる必要がある。総合治水の取組にも期待する。また、訓練にとどまらず、教科科目での学びも重要である。
		4 いじめ対応チームを設置して職員間の連携をさらに密にし、生徒情報の共有を図り、迅速・ていねいに対応できる体制づくりを確立する	B	B	B	/	/	/	/	生徒指導	いじめアンケートから生徒の危機サインの読み取り、その他相談窓口の追加、日頃からの教員と生徒間のパイプ作りの強化を、本校の「H30年度いじめ基本方針」の一部改訂や職員会議での呼びかけにより徹底した。週一度の生徒指導部会(生徒指導部・各学年生徒指導担当者・保健部)での情報交換を頻繁に行い、情報共有に注力した。いじめ対応チーム招集の担当者を明示化し、招集の際、迅速な判断を心がけた。	B	いじめについての意識が高い。いじめアンケートの結果も指標の一つである。引き続き迅速な対応をお願いしたい。
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	B	B	B	/	/	B	A	1学年 2学年 3学年	引き続き保護者との連携を深めるとともに、学年の取り組みへの理解を図りたい。 計画されている懇談会に加えて、適宜保護者と連絡をとり、生徒の状況の把握、指導内容の共有に努めたい。 保護者会の実施と三者(四者)懇談の実施により、保護者との連携を密にすることができた。	A	面談の印象は、保護者の学校満足度に占める割合が高いと思われる。引き続き、個々の生徒に応じたていねいな対応をお願いしたい。
		6 ボランティア清掃や学校評議員会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	B	B	B	/	/	/	/	総務	今年度は7月に予定されていたボランティア清掃を猛暑のため3月に変更した。今後地域との連携においてボランティア清掃以外の方法がないか考えていきたい。	B	地域連携は大切にしたい。また、地域清掃だけでなく、GSや演劇の活動もあわせて、広い観点で評価すべき。
職員の授業力・資質の向上	7 教科指導力向上委員会と連携し、研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B	B	B	B	B	/	/	教科指導力向上	今年度、各科目より、大学入学共通テストへ向けた授業実践の報告をしてもらい、次年度以降に残していけるようにした。また、県の委員会や講師を招いて研究協議・指導助言を受けた。次年度以降も外部委員会と連携しながら、授業研究・実践に取り組むたい。	B	教科指導力の向上は、今後も続けていただき、より質の高い授業を期待する。教員の授業力を高める研修と生徒が感じる指導力は評価の内容が違う。	
	8 新学習指導要領や新大学入試などの実施に向けて、職員研修の充実に取り組み、教職員の意識および指導力の向上を図り、本校のカリキュラムマネージメントの実現に取り組む	B	B	B	/	/	/	/	教務	新学習指導要領の各教科からの説明を行ったり、ICTを用いた授業の取り組みを開始した。来年度はさらに各教科が新学習指導要領に即した授業に取り組めるよう、特にICT環境の充実を図りたい。	B	新学習指導要領の方向は、「教育の質の転換」であると思われる。先生方の意識改革をお願いしたい。	
学力向上と進路実現	すべての生徒の学力向上	9 3年間を見通した計画的な補習・補充やSHRでの小テストを実施し、生徒の学力向上を進める	B	B	B	/	/	/	/	進路指導	時間の確保が難しい平常補習と土曜補習の効率的な実施について検討していきたい。	B	進路状況を見る限り、本校生の満足度は高いと思われる。今後も引き続き学力向上のため、計画的な学習指導を進めて欲しい。
			1年	引き続き、学力向上のための指導をしていきたい。									
			2年	生徒自身が、補習・補充や小テストをうまく活用できるよう促していきたい。									
	3年	平常・土曜補習・長期休業中いずれも、必要な生徒に対して必要な学習内容を提供することができた。また、国公立大学2次試験へ向けての補習は生徒それぞれの学力を確かにし、試験に向けて激励するのにも役立った。											
10 量・質のバランスに配慮した課題に留意し、「家庭学習の記録」を通して家庭学習の実態を把握し学習指導に生かす。	B	B	B	C	B	B	B	進路指導	「家庭学習の記録」は各学年が工夫して活用している。本校の伝統として続けたい。	B	「家庭学習の記録」の十分な活用を通して、さらなる学力向上につながることを期待する。去年の数値と比べると、課題等についても、うまくバランスがとれたのではないかとと思われる。「家庭学習の記録」の効果等について、一定の啓発も必要であろう。		
	1年	学習習慣の定着を図り、学力向上へと繋げたい。											
	2年	各教科の状況を考慮して、適切な課題となるよう心掛けたい。「家庭学習の記録」を十分活用できていない生徒には、今後の学習計画に活用できるよう指導していきたい。											
3年	担任と、生徒との短いメッセージのやり取りが生徒を勇気づけたり、3年間の学習の累計を可視化することで生徒に自信を持たせたりすることが学習をする生徒の心を支えるのに大いに役立った。												
総合的な学習の時間の充実	11 目標(取り組む姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、発表会を実施することで内容の充実を図る	B	B	B	/	/	/	総合学習	普通科の現在の総合学習から、新学習指導要領の総合探究へ向けて内容のさらなる充実を図りたい。	B	総合的な学習の時間の評価については、発表会そのものの評価が指標になる。内容の充実した発表会を期待する。		
進路指導の充実	12 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、自己実現をめざすキャリア教育の充実を図る	B	B	B	/	/	B	B	進路指導	大学入学共通テスト初年度に向けて、生徒が不安なく受験ができるようにガイダンス充実を図りたい。	B	講演会やガイダンスについては、生徒の評価があってもいいように思われる。生徒、保護者が不安なく受験に臨めるよう情報発信をお願いしたい。	
	13 利用しやすい進路指導室をさらにめざし、面談や進路希望調査を通して1年から進路に対する意識の向上を図る	B	B	B	B	B	/	/	進路指導	3年生に限らず、全学年の生徒にとっての進路相談の場となることができるように、努力を続けたい。	B	低学年について利用率が少ないのが、生徒の評価が低いことにつながっているのではないかと。	

県立宝塚北高等学校 令和元年度 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(51~75) C:あまりできなかった(26~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	令和元年度 具体的な取組	教員			生徒		保護者		担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて	(評価) 評価に対するコメント	
			(H30)年間	R1中間	R1年間	H30年間	R1年間	H30年間	R1年間				
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	14 1,2年の「朝読」の時間の設置や特別講義等の実施によって、読解力や思考力の向上にさらに努める	B 70.2	B 71.2	B 67.9	/	/	/	/	演劇科	アポロンに設置した書架に、特別講義や卒業生関係の書籍を案内しているが、生徒の利用が進んでいない。書籍に親しむ環境をより整え、図書室の利用なども促したい。	B	書籍に親しむ環境の整備をお願いしたい。
		15 専門科目等を通して対話力・表現力を身に付け、コミュニケーション能力の育成をさらに図る	B 71.5	A 76.4	B 72.5	B 74.6	B 73.9	A 84.2	A 76.5	演劇科	3年生2月の外部出演(バスケットハーフタイムでのパフォーマンス)では、生徒だけで状況を把握して臨機応変に取り組むことができ、成長が見られた。	A	演劇科については、生徒全体の意欲も高く、演劇科の特色ある取組についての評価も高いように思われる。引き続き、充実を期待したい。
	GS科の充実	16 シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	B 74.8	A 79.5	A 78.6	/	/	/	/	GS科	シアトル研修ではMicrosoftやBoeingでの研修やワシントン大学での講義等を通して英語コミュニケーション能力を向上させることができた。今後は課題研究発表会での英語によるプレゼンテーション能力を発展させたい。	A	シアトル研修での経験、今後の学生生活にいかしてもらいたい。ますますの発展、向上に期待する。
		17 SSH及び高大連携事業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を深く考える機会とする	B 71.5	A 79.5	A 78.6	/	/	/	/	GS科	高大連携事業では、講師の先生方に必ずご自身のキャリアに関する講話をお願いしている。それにより、学びの意識や将来像を考えることができた。今後は、「アゴラ(外部講師との少人数での茶話会)をより充実させ、意識の向上を図りたい。	A	意識の向上が学力の向上につながると考える。さらなる充実を期待する。高大連携そのもののアンケートが大きな評価指標になると思われる。
		18 SSH及び課題研究の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力を育成し、学び意欲を高める。	B 74.1	A 78.9	A 80.0	A 77.3	A 78	A 76.5	A 77.3	GS科	SSH指定を受け、より深い学びができることが可能となり、外部での発表会に多数のポスターや論文を提出することができた。今後は、学会での発表機会を増やすことで、生徒の学習意欲の向上を図りたい。	A	課題研究は学科の核となる取組である。前年度よりも充実活動ができたと思われる。今後も積極的な外部での発表を期待する。
	ふるさと貢献活動事業の充実	19 特別支援学校等との交流や地域との連携を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B 66.3	B 62.8	B 64.3	/	/	/	/	総務	特別支援学校との交流では、参加した生徒は参加したことを自ら高く評価し、自己有用感、達成感を得られたが、そのことを校内に発信できなかったのが反省点である。今後はこれらの活動の成果をもっと発信していきたい。	B	活動の成果発信を期待する。今後この取組を拡大するのかどうかによって評価の指標も変わってくる。
	国際交流事業の充実	20 提携校等との交流を通して、世界の中での日本や自分の立ち位置を考え、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	B 61.7	B 61.2	B 55.5	/	/	/	/	国際交流	本年度は提携校受け入れ、交流は実施されなかった。今後の実施に向けて、できるだけ多くの職員に関わっていただき、国際理解の仕事等を理解をさせたい。	B	国際交流の今後の実施を期待する。交流自体が実施されていないことから、低評価もやむを得ない。
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	21 登下校のマナーや校門指導・授業開始時の挨拶や身だしなみの指導を通して、北高生としての意識の向上を図る	B 61.2	B 69.3	B 63.7	B 61	B 56	B 72.5	B 71.6	生徒指導 教務	毎日の登校指導では、担任外の全職員で協力・分担して遅刻・身だしなみ指導をきめ細やかに行った。登校時の生徒の顔色などを見て声かけを行ったり、担任と情報交換するなど、連携した生徒指導へ繋げていきたい。下校指導では、特に考査期間中に下校時間が一斉に混み合う時間帯があり、重点的にバス停・徒歩通学路での立ち番を強化した。外部からの苦情が若干減ったように思う。 チャイムと同時に授業を開始できないこともあった。来年度は50分の授業時間を大切にす取り組みを積極的に行いたい。	B	登下校について、外部からの苦情をなくすよう、今後も継続して指導してもらいたい。保護者の評価が高いことはありがたい。
		22 HR・「総合的な学習の時間」・行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	B 56.3	B 59.5	B 58.9	B 60.2	B 61.5	B 66.9	B 67	人権推進	障害者や高齢者との交流に関して、実際に交流に参加した生徒の意識は高まったが、全体として意識を高めるに至らなかった。今後は、学年、あるいは学校全体として講演会などの取り組みを行いたい。	B	全体の意識を高める取組を期待する。教員の評価が低いことが気になる。その理由の検討が必要であろう。
	図書館利用の推進	23 「図書だより」をはじめ様々な方法で、図書への興味関心を高め、図書館の利用を啓蒙し、利用頻度の向上をさらに図る	B 65.6	A 81.1	A 86.3	C 42.7	B 60.6	/	/	図書	『図書だより』の充実、生徒の動線に掲示物を張り出しなどを工夫し、更なる図書室利用を促進したい。また図書委員にも、積極的な図書室運営を指導したい。	B	校内の掲示物等工夫が見られた。教員、生徒ともに年間の評価が高くなっていることは評価できる。授業等での活用もお願いしたい。
	保健・健康教育の推進	24 保健だよりや講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にす心の育成を図る	B 67.5	B 73.0	B 69.0	/	/	B 69.4	B 70.1	保健	保健だより(すみれ)を毎月発行することができた。テーマの精選、内容の充実を図っていきたい。講演会についても、学校医や職員と連携し、命を大切にできる・自尊感情を高めるような内容で企画していきたい。	B	保健便りは読み応えがあった。さらなる内容の充実を期待します。相談内容などに差があるにしても、希望者に対応できないのは課題である。次年度の取組に期待したい。
		25 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整え、研修等を行う。	B 71.3	B 73.6	B 69.7	/	/	/	/	保健	カウンセリングの希望者が多く、希望に添えないことがあった。来年度は回数を増やしてもらえよう要望した。来年度もさらに職員とカウンセラーとの連携をすすめ、カウンセリングの円滑な実施を図る。	B	カウンセリング等連携の充実をお願いしたい。
	生徒会活動の充実	26 学校行事や集会等、生徒自らが企画・運営する場を与え、自主的に考え、活動する機会の充実をさらに図る	B 74.4	A 75.2	A 76.3	B 64.2	B 61.5	/	/	生徒指導	行事で、生徒会とミーティングなどを細やかにを行い、行事の進行、内容の精査、振り返りなどを確実に習慣づけをして、より質の高い運営を目指した。文化祭では、模擬店への取り組みを新たに追加し、内容もさらに充実した。生徒会選挙での立候補者が大幅に増え、定員がすべて埋まり(9名)、活性化した。またリーダー研修やピアカウンセラーミニ養成講座などを開催し、未来のリーダーの育成に注力した。	A	生徒が積極的に取り組む姿勢が高評価につながったと思う。生徒会の立候補が増えたことはとてもいいことだと思う。これからの活動に期待する。
	SSHによる特色ある学校づくり	SSHプログラムによる学校教育活動の活性化	27 学校では、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校として、特色ある教育活動が行われている。	/	/	/	/	B 67.7	/	B 70.2	SSH	指導要領にとらわれない学校設定科目を導入することができた。来年度は、それらの新科目をスタートさせ、変革をもたらしたい。	B
28 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定を受けていることは、学校の教育活動にとって効果的である。			/	/	/	/	B 69.5	/	B 72.2	SSH	今年度は一部の生徒、教員への活動支援にとどまった。来年度はより多くの教員、生徒を支援し、教員及び生徒の資質向上を図りたい。	B	一年目から素晴らしい評価である。さらなる資質向上を期待する。引き続き充実した活動をして欲しいです。SSHのメリットを生かし、学校全体の活性化をさらにすすめていただきたい。
29 本校のSSHプログラムが、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につながっている。		/	/	/	/	B 67.1	/	B 69.8	SSH	1年生の学校設定科目を実施することで、理数に関する生徒の能力を向上させることができた。ただ、教科との連携が一部の分野にとどまった感じがあるのでもっと連携を密にしたい。	B	教科との連携を期待する。理数系についての効果は高いと想像できるが、あわせて人文系への興味・関心も高まることを期待する。	
30 本校のSSHプログラムが、学力の向上につながっている。		/	/	/	/	B 63.5	/	B 66.5	SSH	実際に学力の向上につながったどうかを図る指標がなく、総括するのは難しい。興味関心を持ち、深い学びを行う力づけられたが、その力が大学受験につながっているかはわからない。いわゆる業者模試を指標には用いたくない。	B	大学受験につながる学力の向上について図るのは難しいと思う。深い学びを行う力は、大学入学後の力につながる。全校生徒への波及を図っていただきたい。	